

中学部 効果的で効率的な授業づくりを目指して

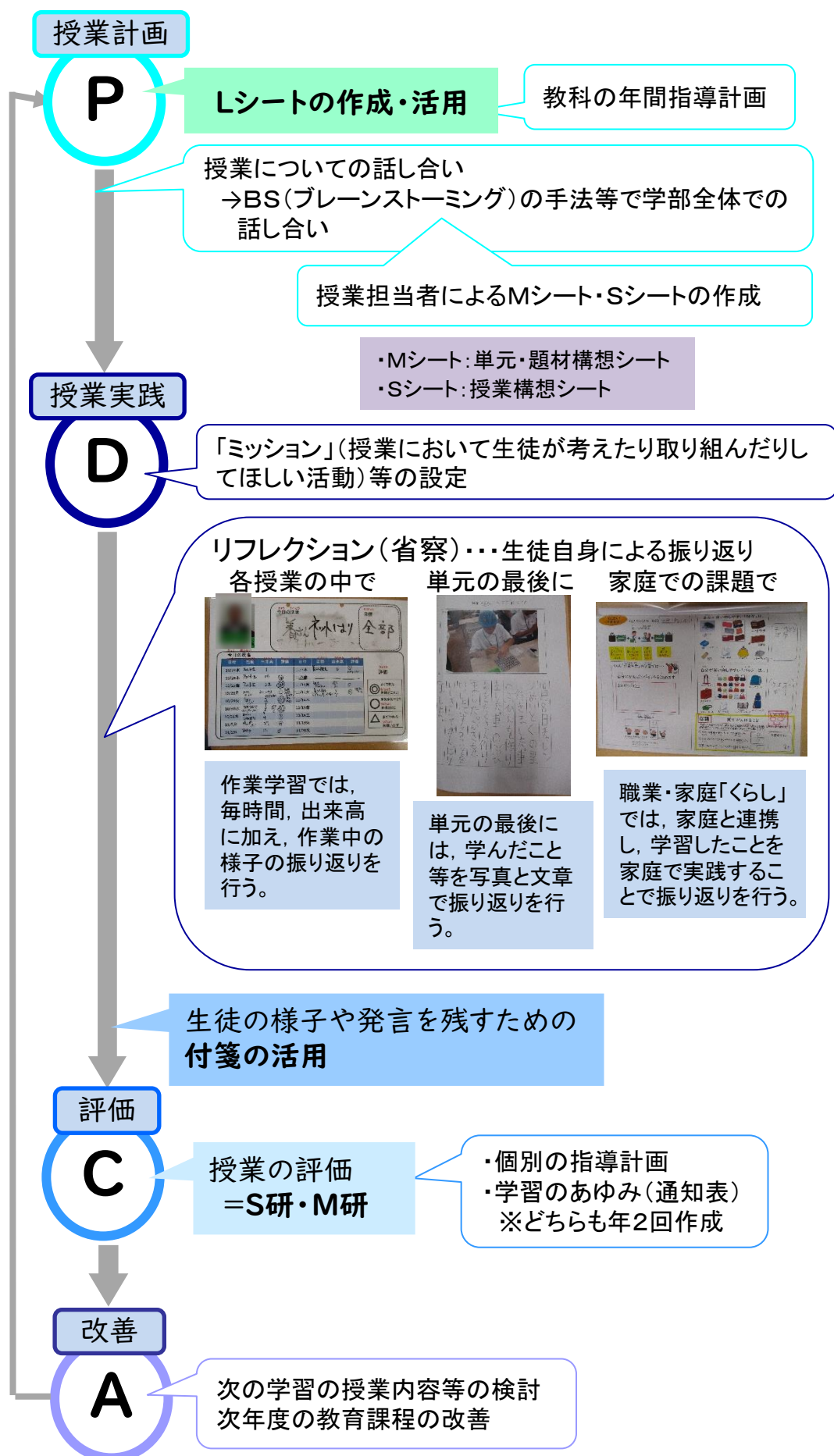
立山 裕美（熊本大学教育学部附属特別支援学校）
中学部職員（熊本大学教育学部附属特別支援学校）

目的

中学部は、縦割りのグループ編成や一斉で授業を行うことが多く、学部全体の教師間の連携が重要である。そのため、授業計画や評価については、学部全体の情報共有を大切にしている。そのような学部の実情や生徒の実態に応じた授業づくりのPDCAサイクルを充実させることで、効果的で効率的な授業づくりを目指す。

内容及び実践

今年度の中学部では、昨年度までの実践を引き継ぎ、より質の高い授業づくりを目指して取り組んだ。



今後に向けて

授業づくりのシステムの改善が、効果的なミーティングの実施につながり、そのことで、日々の授業評価から、授業改善に効果的・効率的につなげることができた。一方で、単元毎の生徒の目標設定等について十分に検討できなかったという課題も残り、時間の確保や方法等について検討が必要である。

成果

1. 学習のつながり～Lシートの活用

学校行事や主となる学習を軸としたLシートを作成し、各教科等（主に国語、数学、道徳）の単元（内容）を配列した。

教科等の学習をつなぐことで効果的な授業づくりができた。

Lシートをミーティングを行う部屋に掲示したままにし、1年間の学習の流れや関連付けを日頃から意識できるようにした。

地域資源の活用や協働の視点も含めた授業づくりにつながった。

2. 情報共有のシステムづくり～付箋の活用

授業における生徒の様子や発言など、教師の普段の気づきを担任の枠をこえて付箋に書き留めた。

単元終了後に、付箋を交換しながら、生徒の学びの状況を話し合うことができ、情報共有につながった。

効率的な手法による記録で授業づくりの時間を確保。



さらに！付箋は各担任が保管する生徒個々の「指導内容関連表」のファイルにまとめ、学期末の個別の指導計画や通知表の作成等に活用。



3. 授業について語る時間～柔軟な運用 S研・M研

効率的・計画的な実施

研究部が月間スケジュールを計画。予定を毎日確認。毎日全授業を評価するのではなく、1日1教科（1単元）をバランスよく取り上げたり、他の業務等に合わせて柔軟に運用したりした。

S・M研：毎日15分間を設定し、授業研を行う時間。

評価を次の授業に生かすことができた。

時間の意識化

司会だけでなく、全員が時間を意識できるよう、ミーティングの部屋の両壁に時計を設置した。



授業づくりの時間確保につながった。

情報の共有化

いつでも授業評価が確認・共有できるように、あえて電子化で残さず、手書きで記録した3年間分のファイリングを保存した。

授業へ手軽に生かすことができた。

また、今年度は、Lシートを活用して学校行事や主となる学習を軸として、関連のある各教科等の単元（内容）を同時期に配列するような形で関連性を図ることができた。今後は、学びを各授業に般化できるような単元の配列についても考えていきたい。